

にとってなぜかモバイル関連技術ウィークになってしまった。まず、これまでLayer 3のMobility技術についての議論は「Mobile IP WG」であったが、このWGで扱う話題が多くなりすぎ、より効果的に議論を進めるために3つのWGに分割する案が前々回のアトランタのミーティングで示されていた(図)。これは、Mobile IPv4の普及に必要な技術について議論する「mip4 WG」とMobile IPv6の仕様を決定することに集中する「mip6 WG」、Mobile IPに関連して移動の通知やハンドオフを最適化する技術に関して議論する「mipshop WG」(MIPv6 Signaling and Handoff Optimization)の3つで、今回はこれらのWGを設置するためにBOFとしてミーティングがスタートした。

mip4 BOFでは、VPN環境でMobile IPを利用する際の問題点と解決策の提案、移動するノードの情報の管理を行うHA(Home Agent)を動的に選択する仕組みに関する提案が行われていた。Mobile IPv4はRFC3344となっており、実用化の段階にきている。そういう意味で実環境で必要となる技術の確立が重要

となっている。

また、mip6 BOFは、Mobile IPv6が本当にやっとなRFCになるだろうとの報告があった。前回のIETFの報告でもRFCになりそうな気配であると報告したが、Internet Draft Revision 24が今度こそRFCにという雰囲気である。すでにMobile IPv6の相互接続性試験も本格的に行われるようである。次回は9月にETSI(the European Telecommunications Standards Institute、ヨーロッパの電気通信関係の標準化団体)がブリュッセルで行う予定で、ここにはマイクロソフトがウィンドウズXPとCEのMobile IPv6の実装を持ち込む予定であるようだ。

一方、mipshop BOFはネットワークに接続されたことを検知するための技術や、ノードが移動した際にその間の切断時間を短縮する技術について議論が行われた。これらは特に、IP携帯電話などを実現する際に必要な技術である。

その他モバイル関連WG動向

このほか、少し動きがあったと思われる

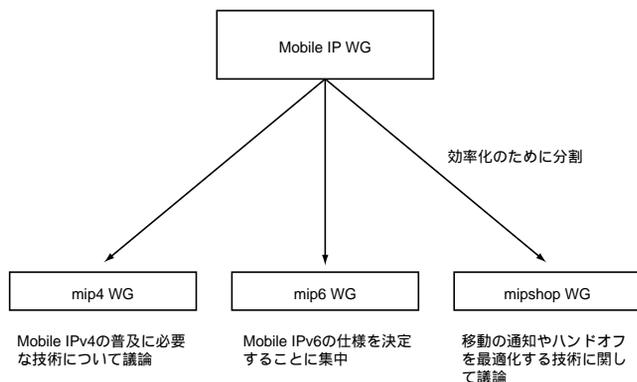
のは、「GeoPriv WG」(Geographic Location/Privacy WG)である。モバイル環境では、ノードが地理的にどこにあるかといった情報を管理することが重要になってくる。また、こうした情報はプライバシーに密接に関係があるので、その点を考慮せずにシステムを構築することはできない。このWGではこうした技術について議論を行っている。しかし、これまであまり活発な議論は行われておらず、基本的な要求や要件の取りまとめと、ノードがネットワークに接続された際にDHCPで位置情報も供給するという提案が行われてきたただけであった。今回のミーティングでは、今後の活動について見直しがなされ、活性化するためにこ入れされることが決まった。まず9月に集中ミーティング(Interim Meeting)が行われることになっており、ここで次の方針が決定すると思われる。

もう一つ、モバイル関係では「seamoby WG」(Context Transfer, Handoff Candidate Discovery, and Dormant Mode Host Alerting)で動きがあった。こちらは、シームレスなモバイル環境を提供することを目指して設立されたWGであったが、このところあまり活発な議論はなく、今回で基本的に活動を休止することが宣言された。

こうした一方で、IPv6についての動向として、今後IPv6が普及する方向へ進みだしたために「IPv6 WG」自身の活動は縮小する方向が決められている。さらに、各WGはIPv6について考慮せずには技術を決められないことも示されている。こうした点を見てもIPv6が実用段階へ進んできていることがよくわかれると思われる。

次回のミーティングは、11月にミネアポリスで開催される。また、来年の2月29日から3月5日まで韓国のソウルで開催されることも今回アナウンスされた。

図: Layer3 Mobility技術に関するWGの動向





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp